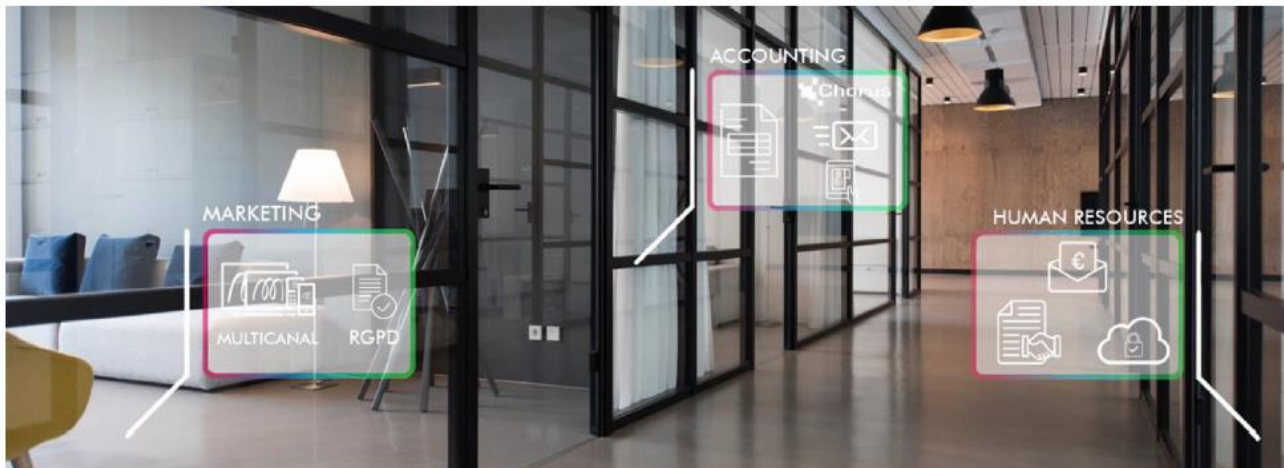




# Mapping OPALE for IBM i



## Mapping Virtual Printer を 使用した PDF ファイルの 自動配信

第 1 版



## ● このガイドの目的

Mapping Virtual Printer(以下 MVP) は、IBM i (AS/400) 上の Mapping Suite が生成した PDF ファイルを受信した後、PDF ビューワーとプリンター・ドライバーを使用して自動印刷するために使用されます。しかし、MVP の設定によっては、PDF ファイルを印刷せずに受信した Windows PC の画面上に表示するのみに使用することも可能です。

それによって、FTP 転送を使用したプログラムを作成することなく、PDF ファイルを自動表示・保存が可能となるというメリットがあります。

このマニュアルでは、そのための設定を行えるようになることを目的としています。

MVP の導入方法や使用方法は、『JP\_DT\_2021FEB\_MappingVirtualPrinter\_V71\_インストールと設定.pdf』をご参照ください。

## ● 目次

第 1 章 Mapping Virtual Printer を設定する.....	3
1. 前提要件を確認する.....	3
2. MVP を設定する.....	3
第 2 章 OUTQ を設定する.....	4
1. PDF ファイル自動表示用の OUTQ を作成する.....	4
第 3 章 PDF を送信して表示する.....	7
1. PDF を送信する.....	7
2. 受信した PDF ファイルを確認する.....	7

## 第 1 章 Mapping Virtual Printer を設定する

### 1. 前提要件を確認する

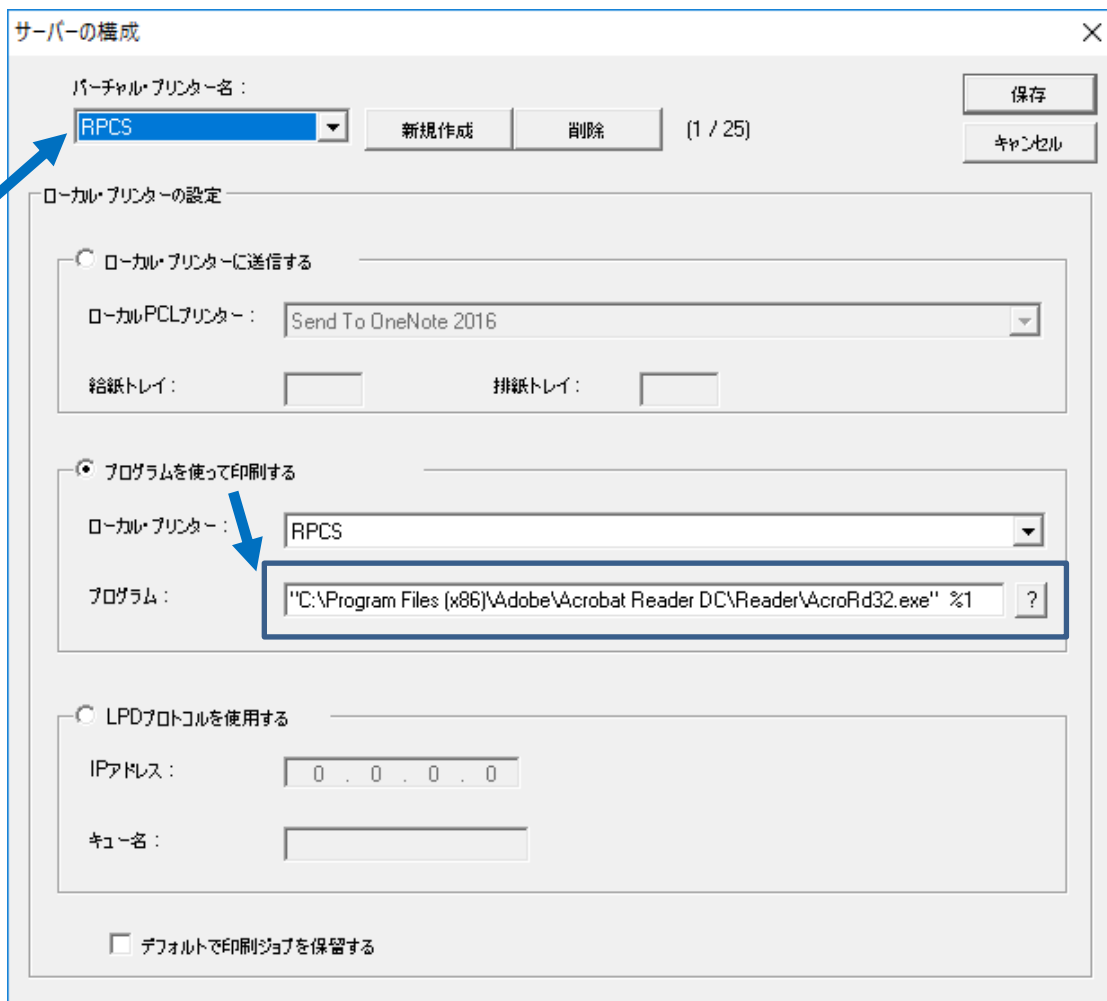
- Mapping Virtual Printer(以下 MVP)は、インストールされていて、ライセンス・キーも入力済みであるものとします。
- “PDF Xchange Viewer” や “Adobe Acrobat Reader”等の、PDF ビューワーがインストール済みであるものとします。

### 2. MVP を設定する

- ① MVP を起動して、メニュー「サーバー」→「停止」→「構成」を選択します。
- ② 「バーチャル・プリンター名」欄に、任意の英数文字で、この設定専用の英数半角文字の名前を入力します。
- ③ 「プログラムを使って印刷する」を選択します。
- ④ 「プログラム」欄に次のように入力します。

例) PDF ビューワーが、Acrobat Reader の場合

"C:¥Program Files (x86)¥Adobe¥Acrobat Reader DC¥Reader¥AcroRd32.exe" %1



サーバーの構成

バーチャル・プリンター名：  
RPCS (1 / 25) [保存] [キャンセル]

ローカル・プリンターの設定

ローカル・プリンターに送信する  
ローカルPCLプリンター： Send To OneNote 2016  
給紙トレイ： [ ] 排紙トレイ： [ ]

プログラムを使って印刷する  
ローカル・プリンター： RPCS  
プログラム： "C:\Program Files (x86)\Adobe\Acrobat Reader DC\Reader\AcroRd32.exe" %1 [?]

LPDプロトコルを使用する  
IPアドレス： 0 . 0 . 0 . 0  
キュー名： [ ]

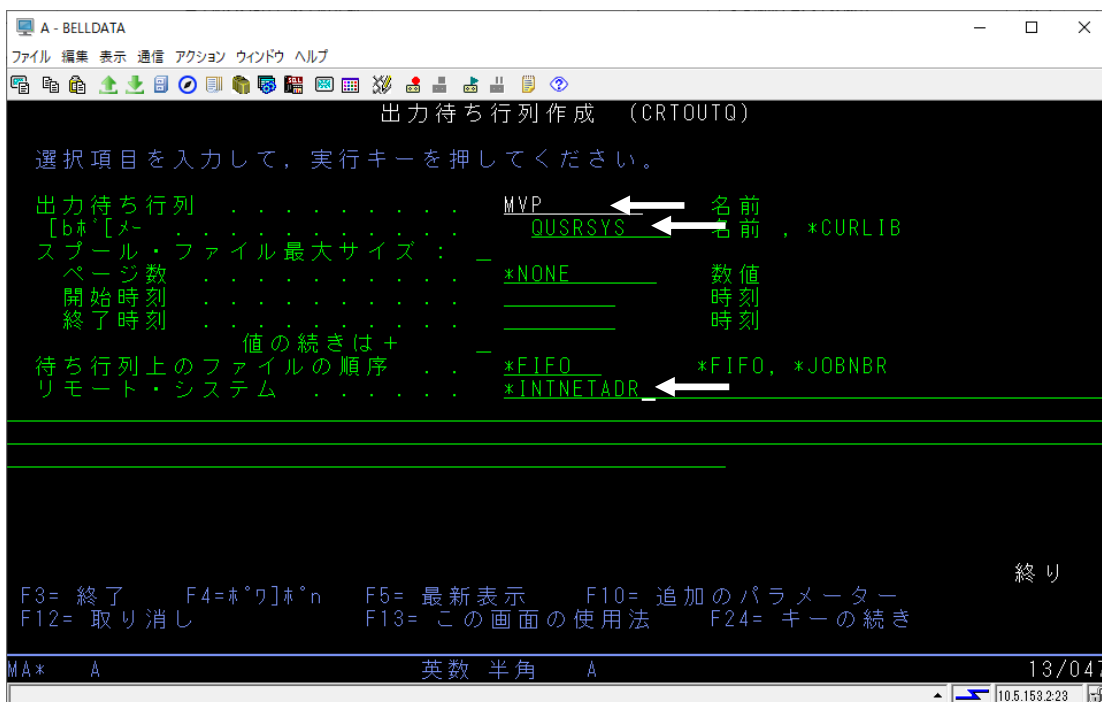
デフォルトで印刷ジョブを保留する

- 注1) 印刷しないので、「ローカル・プリンター」にはどのプリンターを選択しても構いません。
- 注2) PDF ビューワーが、「PDF Xchange View」の場合にも、その実行プログラム(\*.exe) ファイルを「プログラム」欄に指定します。

## 第 2 章 OUTQ を設定する

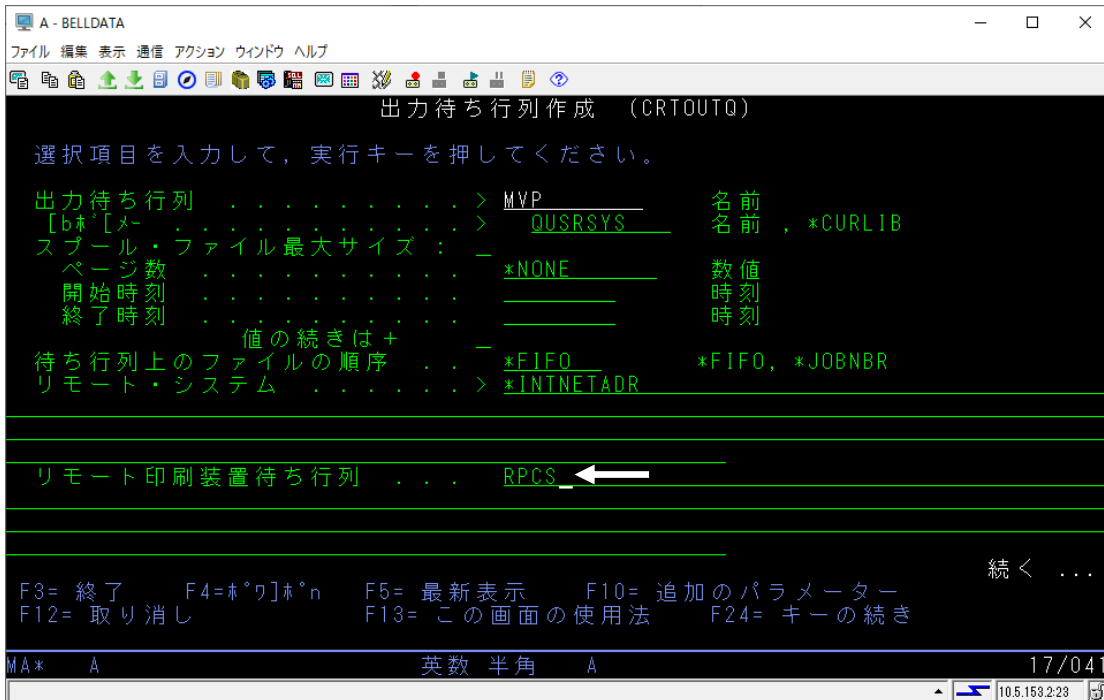
### 1. PDF ファイル自動表示用の OUTQ を作成する

- ① 5250 端末から、\*SECOFR”権限で、IBM I(AS/400)にサインオンします。
- ② コマンド・ラインに”CRTOUTQ” と入力して、F4 キーを押します。
- ③ 次の画面が表示されるので、次の値を入力して実行キーを押します。
  - 出力待ち行列：MVP(OUTQ 名、任意の英数文字を使用します。)
  - ライブラリ：QUSRSYS(OUTQ の存在するライブラリ名)
  - リモート・システム：\*INTNETADR



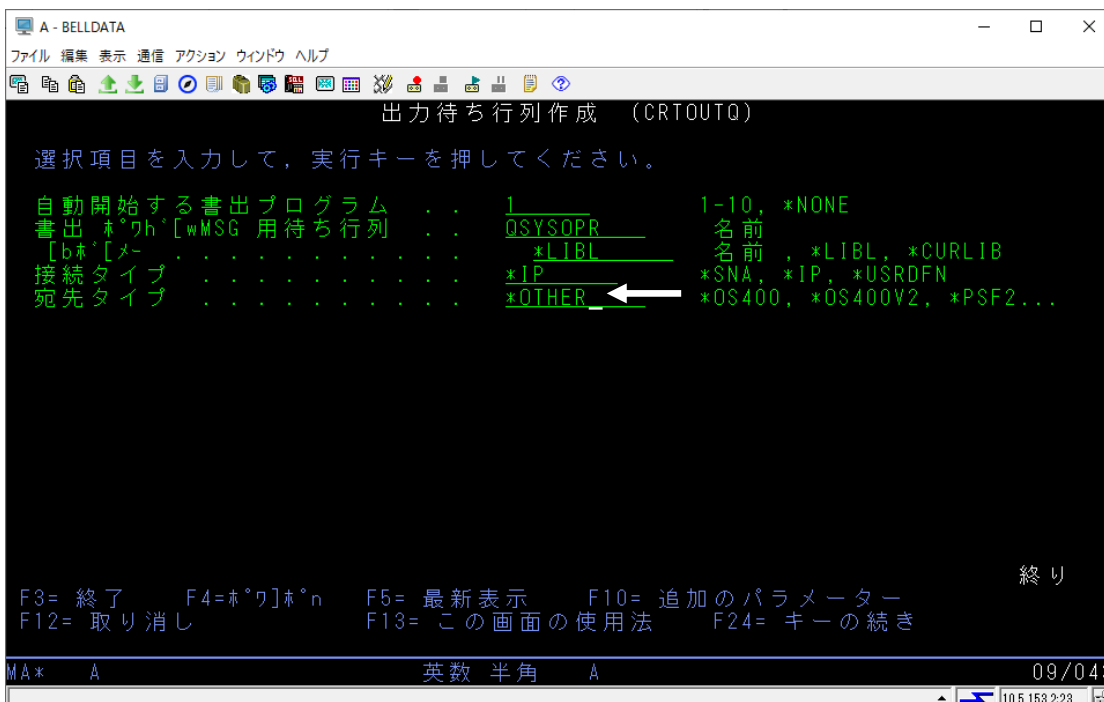
④ 次の画面が表示されるので、次の値を入力して、次ページへ移動します。

- リモート印刷装置待ち行列：RPCS (MVP のサーバーの構成画面で指定した「バーチャル・プリンター名」と一致させます。)



⑤ 次の値を入力して、実行キーを押します。

- 自動開始する書出プログラム：1(1 にすることによって、ライターは自動的に起動します。)
- 接続タイプ：\*IP
- 宛先タイプ：\*OTHER



⑥ 同じ画面で、次の項目が現れますので、次の値を入力後、実行キーを押します。

- ホスト印刷の変換 : \*NO (PDF スプールをそのまま宛先の IP アドレスに送信するためです。)



⑦ 続けて 1 回実行キーを押すと、同じ画面で次の項目が現れますので、次の値を入力後、実行キーを押せば終了です。ライターも起動しています。

- IP アドレス : MVP が稼働する PC の IP アドレス
- 宛先オプション : XAIX
- 区切りページの印刷 : \*NO



## 第3章 PDF を送信して表示する

### 1. PDF を送信する

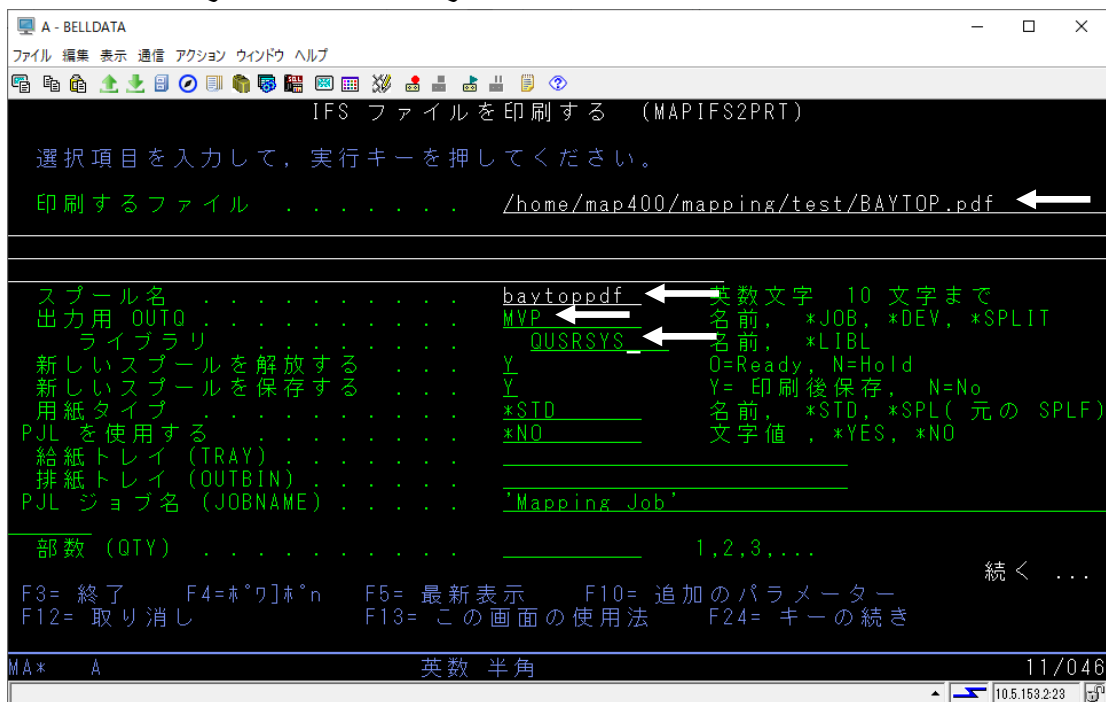
- ① PDF を送信するコマンドは、印刷と同じ MAPIFS2PRT です。コマンド・ラインに MAPIFS2PRT と入力して F4 キーを押します。
- ② 次の画面が表示されるので、次の値を入力して実行キーを押すと、指定した OUTQ を通って、PC 上の MVP に PDF ファイルが送信されます。

File to insert : 送信する PDF ファイルのある IFS のパスと PDF ファイル名を指定します。

スプール名 : OUTQ に送信されるスプールの名称で、値は任意です。

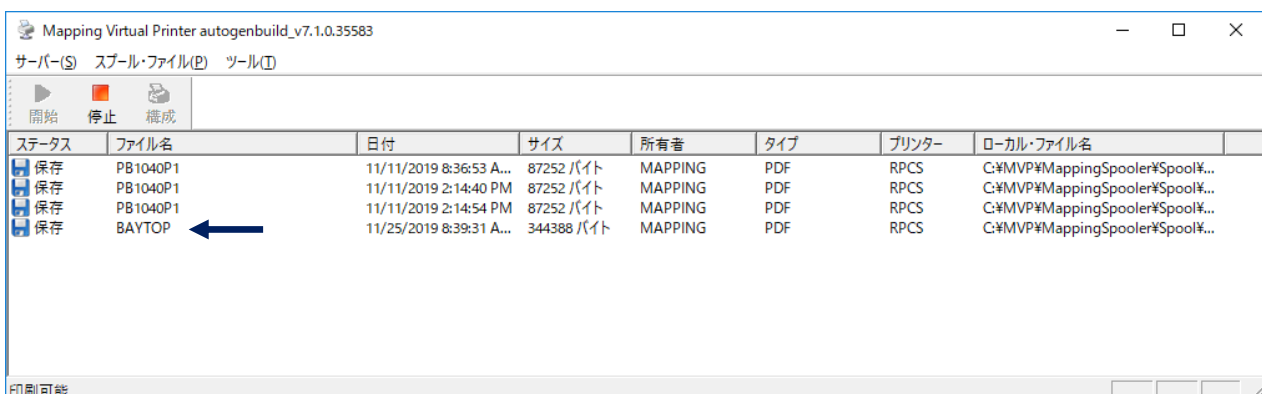
出力用 OUTQ : MVP(第2章で作成した OUTQ 名)

ライブラリ : QUSRSYS(OUTQ が存在するライブラリ名)



### 2. 受信した PDF ファイルを確認する

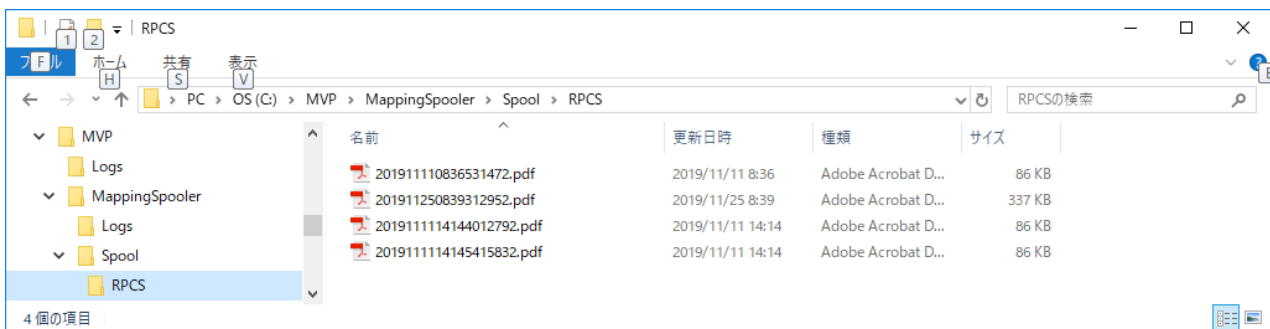
- ① MVP の画面では、次のように受信した PDF ファイルを確認できます。



- ② 第1章で行った MVP の設定に従って、PDF ファイルを受信すると、Acrobat Reader DC が自動的に起動して、受信した”BayTop.pdf”を PC の画面に表示します。



- ③ 受信した PDF ファイルは、PC 上の MVP のインストールされたフォルダーの下にある「バーチャル・プリンター」名のフォルダーに保管されています。



終わり